

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		<p>ミーティングを密に行うことは、スタッフの意見や提言を引き出すと同時に、真剣に検討することで視野は広がり、知識も増す等利点は多い。またチームとしてケアしていくための申し合わせや、管理者の考え方を理解してもらい周知するためには、文書による告知よりも全スタッフが集まったの話し合いが不可欠と考える。以上のことから、以前の状態に戻すことが強く望まれる。</p>
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者は、全ての職員が全ての利用者の「馴染み」となるよう、ケアの上での目標設定を行ったり、異動も抑えるのではなく定期的に行うことで多くの利用者との馴染みの関係を築けるよう、配慮している。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>同一法人内事業所に在職する看護師からの定期的な研修のほか、外部から講師を招いたり、必要に応じて外部研修に派遣したりしている。</p>		<p>年度初めに計画は立てているものの、なかなかそれに沿って進行して内面があるので、今後はそれぞれの職員の能力に応じた内外の研修を実施したい。</p>
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>今年度初めより、南部町内のグループホームの管理者が2ヶ月に1度集まり、それぞれのホームの懸案事項をともに検討したり、情報交換、合同研修会を行う等互いに向上していく為の取り組みを行っている。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者は、職員一人ひとりの性格や能力、そして仕事への取り組み方を把握する為に、観察とコミュニケーションを重視し、バーンアウトや過労の防止に努めている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>管理者は運営者に対し、職員の意欲が向上する為の方策を提案し、また職員に対しては方向性を示すことで、ケアの向上への道筋を暗示している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前には、入居者は勿論のことご家族とも当ホームで生活していくうえで、これまでの生活を極力継続できるように、十分な話し合いと情報の聞き取りを行っている。</p>	<p>入居者に対しては、本人の主張を最大限受け入れる為に、傾聴することを重視した対応を心がけている。</p>
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受ける時点では、殆んどが満床で待機を要する状態である事が多い為、その症状や緊急性等も鑑み、当ホームの受け入れ態勢や他サービスの内容説明や紹介等も行っている。</p>	<p>入居希望者のニーズを第一義に調整することを旨としている。</p>
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に収集した情報を念頭に入れながら、しかし全て鵜呑みにはせず、実際のケアを通して観察することで、ホームの環境に馴染む為の方策を講じている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>極力ホールを中心に、入居者と職員が一緒に過ごすことで、信頼関係が育まれるとともに、これまで見えなかったもの、例えば胸の内や過去の経験などを知ることによって今後のケアに生かしたり、円滑な意思の疎通を可能なものになっている。</p>	<p>今後もこれまで以上に、職員の知らない歴史や、地域特有の料理法、農作業や園芸などの秘儀の教を請うような形で残存能力をひきだしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	一緒に本人を支えていく関係といっても、入居者と家族、キーパーソンとその周辺の親族の関係は千差万別であり、一組一組の家族関係を充分考慮した上で、入居者、家族、そしてホーム職員それぞれの立ち位置を、勿論話し合いを持ちながら、最終的には入居者本位の日常を送れるよう推し進めて行きたい。		家族の負担を考えながら、可能な部分で協力をお願いしている。
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	前項でも述べたように、一組一組の家族関係をある程度把握した上で、現状より少しでも絆が深まるような関係を構築できるよう、支援できるようなサービスを心がけている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、本人が望む人との対面を実現する為の努力を惜しまぬよう配慮している。また、お祭りや敬老会など旧友が集うような催し物には、積極的に参加し、再会し話しがはずむような仲介を心がけている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活を続けていく過程においては、どうしてもその生活歴や症状の軽重などから齟齬が生じがちだが、拙速に改善を求めるようなケアは行わずに、時間をかけお互いが自然に関わりあえる状況を、職員が何気なくとりなすような介入の仕方を心がけている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	例えば、入居中仲の良かった入居者が逢いに行ったりとか、御家族の人を通して退居後の様子を伺ったりとか、引き続き良好な関係を保てるような音信を確保している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のコミュニケーション(言語的、非言語的を問わず)の中から、本人の意向や希望を汲み取れるよう、意識して観察するよう努めている。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時家族等からこれまでの生活歴や趣味、好みなどを伺い、情報を収集し、その情報を全スタッフが共有し、入居者の興味を湧くような会話や共同作業の提供を試みている。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一日一日の様子を記録し、そこから見えてくる入居者個々の日々の生活のありようをミーティングの中でテイテイ的に検討し、プランに反映するよう努めている。</p>	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>例えば、本人の希望や訴えが、家族の希望や医師からの指示と異なる場合、本人の感情を踏まえ、改めて家族や医療機関と話し合い、極力本人も周囲も納得できるようなプランを作成できるよう配慮している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的に見直し作業は3ヶ月に1度行っているが、ミーティングは月に1度行っており、その中で全入居者の現状と問題点を話し合い、プランの加筆や削除も検討している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個々の記録は毎日記録し、全職員がその内容を把握、共有し、それを念頭に入れ、日々のケアに活用している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療機関への送迎付き添い、医師への現状報告、また外出希望先や逢いたい人との面会実現の為の計画実行など、運営体制の中で可能な限り対応している。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>消防署は、ごく近くに位置し、普段から消防訓練や救急救命など通し、連携している。また地域の消防団の方々に救援隊を組織していただき、緊急時の応援を快く引き受けていただいたり、町内の唄や踊りの団体から年間行事として慰問をセットしている。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>介護保険における他サービスの活用については、法律に則り居宅療養管理指導のみを活用しており、多くの入居者に御利用いただいている。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>定期的に地域包括支援センターが主催する地域ケア会議に参加し、主にケアマネジメントのあり方などを協議している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者本位の観点から、入居前からのかかりつけ医を希望される方は、希望される医療機関で診察を受けている他、協力医療機関にない科目の受診が必要な場合は、専門医療機関まで、送迎付き添いを行っている。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症が重度化した場合は、協力医療機関より専門医を紹介していただき、定期受診を行っている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関による居宅療養管理指導を通じて、所属の看護師と折に触れて連絡を取り、緊急時の対応や重症化防止のために診療の上での窓口になっていた。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関には、当ホームの事情を十分理解していただくとともに、居宅療養管理指導を通じて入居者個々の既往歴から現状に至るまでについても把握していただいております。入退院の連携はほぼ万全と思う。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	介護報酬に医療連携体制加算が設定された平成18年度より、重度化した場合のホームに対する要望、あり方などを本人や家族に伺い、その意向をホーム内職員に周知し、協力医療機関とも話し合っている。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	開設以来8年目に入り、開設当初入居された方も老いや病状の重度化により年々レベル低下していく中で、極力短期的に「出来ること」「出来ないこと」を把握し、ケアに反映させるとともに、プランの材料としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	受入れの施設関係者或いは担当ケアマネに、当ホームにおける日常の過ごし方や、ケアにおけるアプローチの仕方を伝達するとともに、急激な環境の変化に戸惑わないよう、受け入れ先に配慮するようお願いをしている。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	それぞれの入居者のプライドや触れて欲しくない過去などを早期に把握し、それを念頭に置きコミュニケーションに活かしている。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	また、記録においては、本人以外の入居者の目に触れないとの確信が持てる位置で、行うことを旨としている。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には入居者個々の希望に叶うよう、一日の計画を立案、遂行しているが、意思の疎通が徐々に難しくなっている入居者も出てきており、その思いを理解できるようなケアの向上が求められてきている。		コミュニケーション(言語的、非言語的を問わず)を密にとることにより、少しでも思いに近づけられるように努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自らの意思表示が可能な方には、本人の意向を支援することでその人らしさが出るよう配慮し、意思表示が難しい方にはその場にあった身だしなみを提供している。		最近、近隣のエステ店が当ホームの入居者に無償で高齢者向けのエステを提供したいとの申し出があり、希望された入居者に施していただき、好評を得ている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の朝、昼、夕のメニューをホールの目立つところに掲示し、そのメニューに纏わる会話を取り入れた り、野菜の皮向きや筋取りをお願いしたり、味見をして もらったりしている。また食後は、食器拭きをなるべく 多くの入居者が出来るよう、配分して行っている。		以前行っていて、諸々の事情で中止している入居者 からのリクエストメニューの復活を検討してみたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、 好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的 に楽しめるよう支援している	おやつやジュース等の飲み物については、極力本人 の望む物を提供したり、ご家族に用意していただい たりしている。またお酒については、いつもと言うわけ には行かないが、お祭りやお正月など、折々の催事など に望まれる方には提供している。		タバコは運営者が全面禁煙を打ち出しており、現在 喫煙を希望される方がいないので問題はないが、今後 喫煙を希望される方が入居された場合、どう対応す るかが検討課題となつてこよう。
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひ とりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンの把握に努め、本人の意思を 尊重しながらではあるが、そのパターンに基づいて誘 導や声掛けを行い、失禁の減少に結び付けている。		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず に、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	特別な行事の日を除き、お風呂は毎日沸かし、3~4 名利用している。一応その日の入浴の予定は立てて いるが、希望や拒否には柔軟に対応している。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう 支援している	休息、臥床を望まれる方は、基本的に本人の望みに 沿い、望む場所にて支援している。但し、一日を無為 に過ごさぬよう、メリハリのある生活になるように心が けてはいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽し みごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの過去の生活習慣や趣味に応じて、役割 や余暇活動の支援を行い、日々の暮らしに刺激と張り を感じていただけるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、盗難(当ホームでは過去に事例はないが)や紛失を避けるために、まずはホームでお預かりし、管理可能な方には、少額を所持していただいている。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、玄関前庭や中庭に出て、外気にあたり自然の息吹を肌で感じていただけるよう配慮している。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	買い物、美容院、お祭り、イベント(唄、踊り、スポーツなど)、果物狩り、友人宅など希望されれば、可能な限り応えるよう努めている。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、希望があれば自由に利用していただく体制をとっている。手紙も送られてきた方に対し、お返事を書いていただく支援をしている他、親しい人に年賀状を送れるような支援も行っている。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族、親戚、友人等、本人ゆかりの人たちは、暖かく迎え入れるよう努めており、雑談や思い出話も交えながら、和気藹々となるような環境づくりを心がけている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、身体拘束を行っていない。また何故行っていないかも理解している。		本人の身体に危険が孕む場合、それに代わる方策が見当たらない場合、一時的に行うケースが過去にあったが、行政や家族とも連絡を取り、密室化しないよう努めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前の県道が日中交通量が多いことや、過去に職員が気づかぬうちに出了られた方の転倒事故の経験から、現在は玄関に通じる引き戸をロックしている。但し、立位可能な方であれば、届く位置であり、つまみを捻るだけであく形式でもあるので、出入りの自由さも残している。		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中をホールで過ごされる方は、調理場やスタッフルームからの確認が比較的容易であるが、居室で過ごされることを好まれる方に対しては、折に触れて訪問し、様子を観察するとともに、コミュニケーションをとることで体調や気分の把握を図っている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	まさにその通りで、一人ひとりの能力や残存機能を把握し、そこから物品の所持や利用を極力奨励するような申し合わせを行っている。但し、使用後の数や置き場所は確実にチェックするよう努めている。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	同一法人内の看護師による事故防止や応急手当の内部研修を実施したり、救急救命やAED使用法などの外部研修に積極的に参加し、防止と対応の向上に努めている。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	前項と重複するが、内外の研修に参加しているほか、スタッフルーム内にマニュアルをボードに記し、掲示している。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練(消火訓練、通報訓練、避難訓練)を行っているほか、災害時のマニュアルを作成し、職員に周知している。また、川の氾濫回避の為に近くの公民館への避難を過去3度経験しており、そこから得られたものも財産となっていると思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	月に1度行うミーティングにおいて、個々の入居者について想定されるリスクについてを討議する時間を設けており、そこで結論付けられた内容を、後日本人、必要ならば家族にもお知らせし、ご意見を伺い、理解を求めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェック(血圧、体温、脈拍)を行っているほか、体調の聞き取りや普段との様子の比較等から少しでも異常が疑われる場合は、まず医療機関との窓口になっている看護師に報告の上対応してもらい、必要とあらば速やかに受診等の処置をとっている。		
71 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	まずは全入居者の薬はホームで保管し、その都度、入居者の現存する能力に応じて、服薬を支援し誤薬防止にも努めている。		
72 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や運動の奨励も試みて、それに理解を示し改善に向かった例もあるが、なかなかこれまでの生活習慣や食の好みを急激に変更することは高齢者にとり難しい部分があり、主治医の指示で薬による処置になるケースもある		常日頃から、日常的の活動的になるような働きかけを無理のない程度に実行するケア体制を心がけたい。
73 口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	基本的に歯みがきの自立されている方は、日常的には声掛けによる励行のみであるが、コミュニケーションをとる中での観察において異常を感知した場合或いは本人より訴えがあった場合は、速やかに対応を講じている。尚、介助を要する方に対しては、常にチェックを行っている。		
74 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューを作成する管理栄養士により朝昼夕の食事のカロリーや栄養は、個々の入居者にとってバランスよく保たれている。但し、基本的には、入居者それぞれが、好きなものを好きなだけ食べられるよう、その為にはどのようなケアや各方面への働きかけが必要とされるかを前段として追究することが肝要と思う。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	環境衛生に関する研修に毎年職員を派遣している他、感染対策マニュアルや食中毒対応マニュアルを作成し、事前防止策や万が一の事後の対応策も周知している。		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材をチェックする専任の職員を配置している他、調理前の手洗い、消毒の徹底や、定期的な冷蔵庫、調理器具、食器、布巾等の消毒も実行している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物自体は、以前工場だったものを内部のみ改造した為、親しみ易さというよりは厳めしいという佇まいに感じられるが、庭の周囲に花や野菜を植え、何とか民家の香りが漂う雰囲気に近づくよう努めている。また玄関前庭については、入居者の大切な散歩や歩行運動の場でもあるので、極力シンプルに不必要なものはおかない配慮をしている。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさ、室温、換気、装飾、配置など、どのように設定すれば入居者に心地よく過ごしてもらえるかをミーティング等で意見集約しながら付けていっている。また季節を感じさせる装飾を、入居者の手も借りながら作成、展示している。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、畳、炬燵などを設置し、家庭を思わせる空間を提供し、気の合う人とともに過ごせる配慮をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
81	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		<p>項目の文中に「外気温と大きな差がないよう配慮…」とあるが、それが真冬の氷点下をも想定しているのであれば、当ホームにおいては全く配慮していない。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
82	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
83	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
84	<p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		<p>2つのユニットは、自由に行き来し易い構造となっており、非常に交流が活発である。また広めに設計されているホールを利用し、慰問の団体を頻繁に招き、ご鑑賞いただいている。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者本位、そして可能な限り希望に即したケアを心がけ、入居者の思いに寄り添うことの出来るよう対応を実施している。ただ認知症介護においては、非常に奥の深さが感じられ、サービスの向上に終着点はあるのか、入居者や家族の満足度はどこまで行けば合格点をいただけるのかなど、暗中模索、五里霧中に陥ることもしばしばである。それでもひたむきに入居者とともに喜び、ともに悩む信頼すべきスタッフと共同して、バーンアウトに注意を払いながら、その時々設定した目標に向けて前進していきたい。